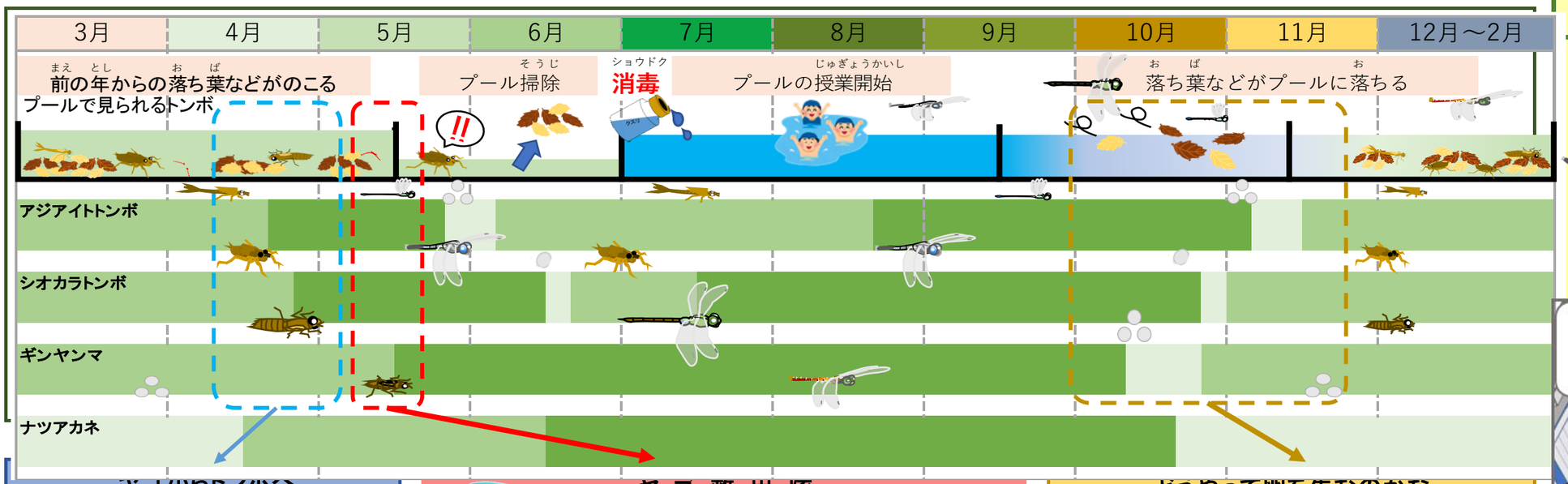
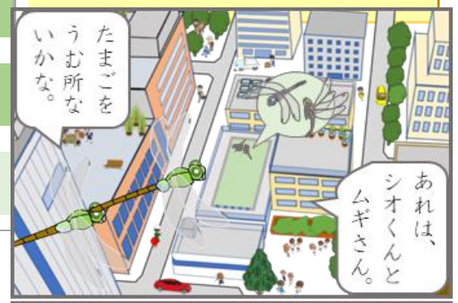
プールとトンボの一年



まちトンボ 物語



ヤゴからトンボへ

ヤゴは、草などを登って、水から出てきます。

でもプールのかべを登るのは、むずかしそうです。

ヤゴたちがちゃんと羽化するためには
どうしたらいいんだろう？

そこで今年は、こんなことをしてみました

ネットで羽化をする
アジアイトトンボ→

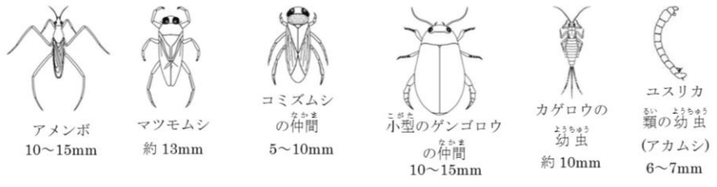
プールに張られた
ネット↓

ヤゴ救出隊

プールの水を抜くと、ヤゴがいっしょにに流されてしまいます。もう少しで、トンボになれるところだったのに…。

たくさんのヤゴを救出してあげましょう。
救出の時に、ふみつけないようにね。

プールにはヤゴ以外にもいろいろな生き物がいます。ヤゴと同じように助けてあげましょう！



プールのヤゴは何を食べている？

学校のプールにヤゴの食べものってあるのかな？　答えは、ヤゴ救出観察会で！

どうやって卵を生むのかな

①シオカラトンボは尾の先を水につけて、卵を生み、②ナツアカネは、連結したまま空中で尾を振り卵をばらまきます。③ギンヤンマや④アジアイトトンボは、草や木の中に卵を生み付けます。また⑤オニヤンマは小川の砂の中に、産卵管をさしこんで産卵します。

プールのトンボは、どうやって生んでいるのかな？

服装や持ち物

ヤゴ救出の日は、水が30cmくらいのこったプールで作業をします。

プールサイドやプールの中では、すべりやすいので絶対に走らないでください！

はだしやビーチサンダルは絶対にダメです。長ぐつも動きにくいのでやめましょう。

◎服装や持ち物

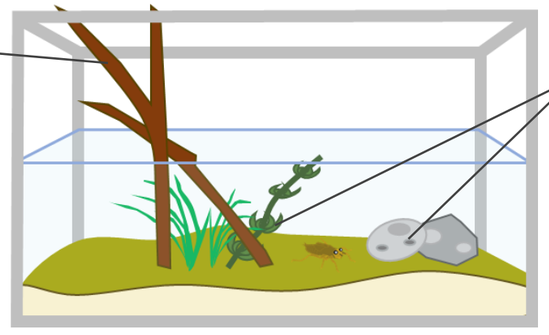
・ぬれても良い服（体そう服など）　・タオル
・ぬれても良いすべりにくい運動ぐつ
・着がえの服、くつ下、下着など（全身ぬれる場合があります）
・ビニール袋（ぬれた服などを入れる）
・ぼうし（日差しが強いとき）　・軍手（予備で）
・ヤゴを持ち帰るための入れ物（ペットボトルなど）

◎かたづけ

・よごれた手足を洗い、着がえて、ぬれたくつなどをかたづける。
・つかまえたヤゴは、持ち帰り、大切に育てよう。
・その他の水生昆虫は近くのビオトープなどの池に放してあげよう。

昨年の様子（御成門小学校）

ヤゴの飼い方



●水
水道水でも大丈夫ですが、一日くみおきした水が安心です。
エサやフンで汚れたら、かえてあげましょう。

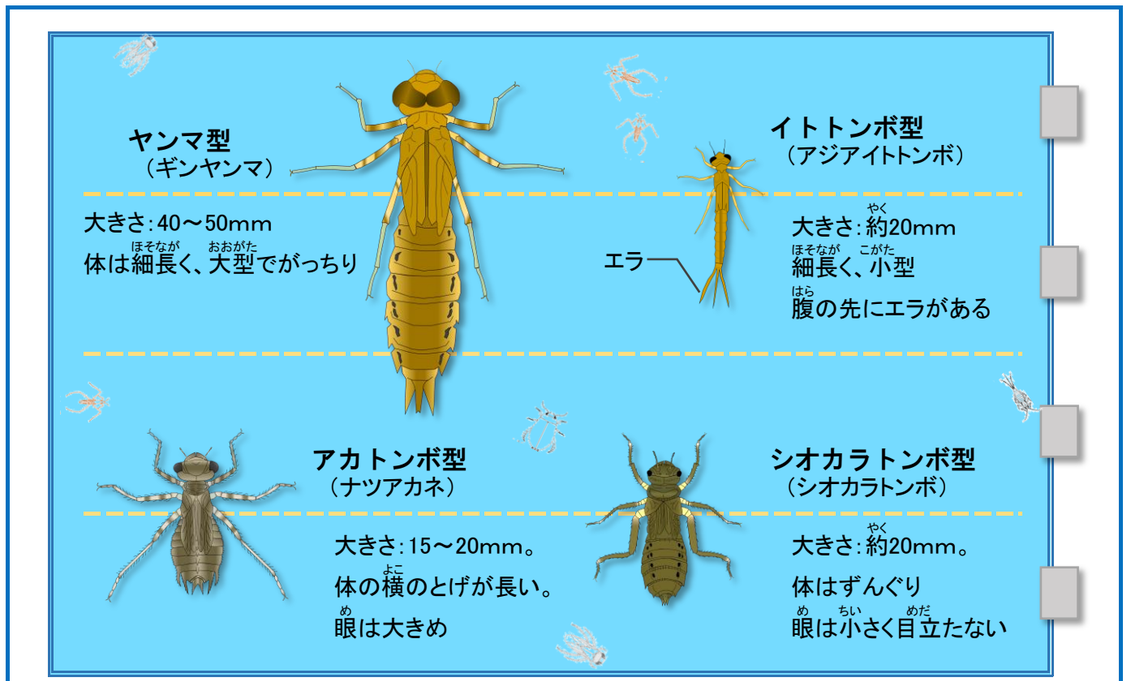
●エサ
ヤゴは生きたものをたべます。イトミミズやアカムシなどをあげましょう。
イトミミズなどはペットショップで用意しなければならない場合があります。
家で飼うときはお父さん、お母さんに聞いてから飼うようにしましょう。

●ペットボトルを使った容器
ペットボトルを下から10cmくらいの高さで切ります。羽化するためのわりばしを容器にはさんだら、できあがりです。

※共食いをしてしまうので容器に入れるのは1匹にしましょう。

プールのトンボ

学校のプールには、ヤゴと言われるトンボの幼虫なども利用しています。ヤゴがトンボになり飛び立つ前にプールを掃除すると、みんな死んでしまいます。そんなヤゴたちを助けて、大切に育て、飛び立たせてあげましょう。



トンボは池や田んぼ、川などに卵を産み、そこでヤゴが成長し、羽化して成虫になります。
でも、トンボが卵を産むのは池や田んぼだけではありません。夏の水泳シーズンが終わり、人間が使わなくなったプールにも、トンボたちが卵を産みにやってくるのです。

トンボの眼

トンボの眼は種類によって、しっかりくっついているもの、少しだけくっついているもの、離れるものなどがいて、これで仲間わけができます。
※ オニヤンマは小川などきれいな水の流れる場所にいるトンボで、街中では見られません。